

第 648 回 経済学例会(2025/12/17)

報告論題 救急搬送データと経済学研究

報告者 山岡淳

要旨

本報告では日本の救急搬送個票データが、経済学研究の分析ツールとなり得る可能性を、研究動向を踏まえながら検討する。当該データは、高解像度（秒・分単位）かつ網羅的な特性を持ち、需要側・供給側双方の経済行動の識別に利用可能である。データベースのフレームワークを示したうえで、実際の研究として需要側と供給側の選択を評価した研究について紹介する。

ただし、当該データベースの単体では利用可能な社会経済的指標は限定的である。例えば、家族構成や所得等については、情報を取得することができない。こうした情報を研究で利用するためには、他のデータベースとのリンケージが必要になる。神戸市ヘルスケア連携システムのデータベースでは、救急搬送データに加え、住民基本台帳や医療や介護のレセプトとの突合が可能であり、救急搬送の背景にある経済社会的な背景も用いた研究が可能になる。そこで本報告では、現在、当該データベースを用いて実施している研究についても、取り扱う。